スタイルクリエーター(PSR-3000)の使い方

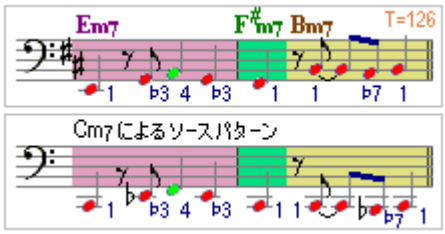
2010/11/11 Rubato

本書ではポータトーン PSR-3000 取扱説明書 P112～125「スタイルを制作する」の操作方法について（主として STAGEA ユーザーを対象に）補足説明します。

なおポータトーン PSR-2000/1000, 2100/1100, 3000/1500, PSR-S900/S700, S910/S710, クラビノーバ CVP-200 番シリーズ、CVP-300 シリーズ, CVP-400 シリーズ、および Tyros, Tyros2 の各機種ではスタイルクリエーターは操作画面が共通化されています。

[注] 最新の CVP-500 番シリーズ,Tyros3,Tyros4 は、保存できるファイル種別が新しい SFF2 仕様になるため、従来の機種では使用できません。

１．ベースパターンを作る

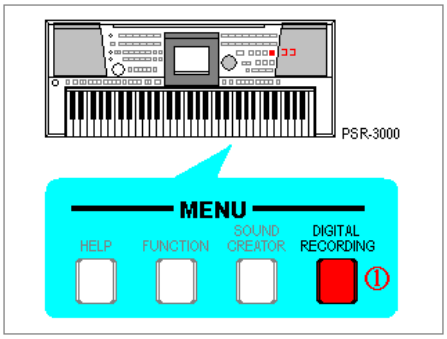


左図（上）はサブドミナントからⅣm7→Ⅴm7→Ⅰm7 で進行する Bm２小節のベースリフです。STAGEA でこのパターンを鳴らすことを実習してみます。

まず各コード（Em7,F#m7,Bm7）のルートを１とする度数を書き込みます。（1-b3-4-b3, 1-1-b7-1）

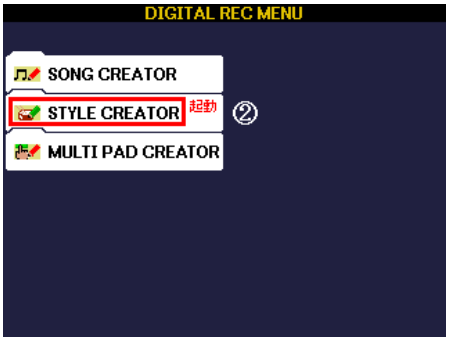
スタイルのソースパターン（元パターン）は同じ m7 系のルート C で作ることにします。ルート C で作りますので、先ほどの度数をすべて 1＝C 音だとみなして、音符を移動させるとCm7 によるソースパターンが導き出されます。

２．スタイルクリエーターの起動



２－１)ポータトーン PSR-3000 では右側中段にある、MENU 群の中の Digital Recording を押します。①

[注] PSR-S900/S700 や CVP-400 番シリーズでは液晶画面の右側にある[Function]を押します。



２－２）Style Creator を選びます。②

3．スタイルクリエーターの初期化

３－１）STAGEA の RPP と使用感が異なるのは、スタイルクリエーターを起動すると、自動的に（いま現在、楽器本体に読み込まれている）スタイルがロードされる点です。

起動時の画面で「クール８ビート」と表示され、MainC になっているのは、起動の直前までこのスタイルの MainC を使っていた（または操作パネルに読み込まれていた）からです。

３－２）New Style を押すと初期化できます。③

３－３）初期化されました。

【参考】新規にスタイルを作る場合は、まず初期化から作業を開始します。ここが STAGEA の RPP とは異なります。

３－４）基本パラメータが更新されています。

スタイル名：NewStyle（保存時に変更できます）

セクション：Main A

パターン長：１小節

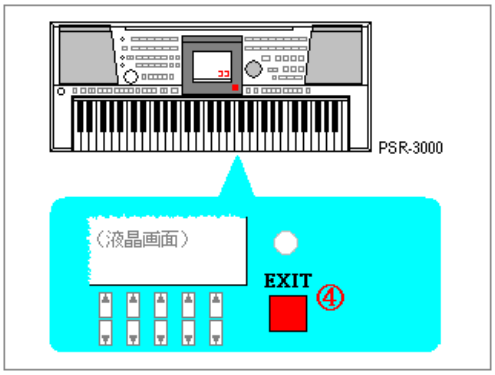
テンポ：120

ビート：4/4

パート音色：（初期化されて）ピアノ

４．スタイルの基本設定

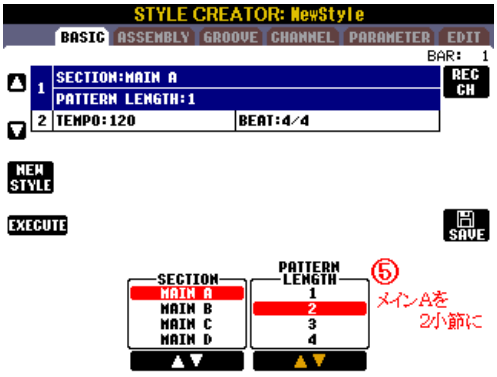
まずスタイルの基本設定を行います。



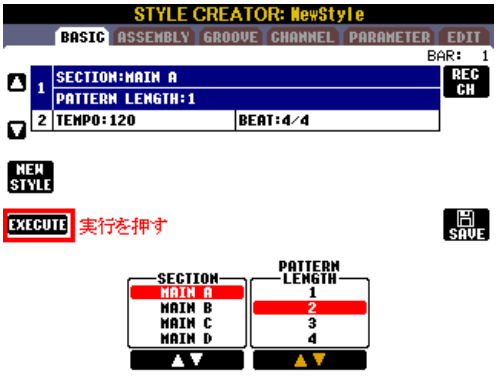
４－１）液晶画面の右横下にある EXIT を押す。④

【注】CVP シリーズでは日本語で「戻る」

４－２）先ほど 3-4）で隠れていた画面下半分が現れます。



４－３）MainA の小節数を２に。⑤

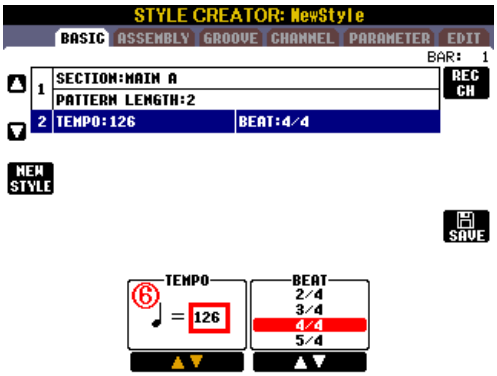


４－４）Execute を押して実行します。

【注】これを押すのを忘れると反映されませんので要注意

４－５）MainA が２小節になりました。

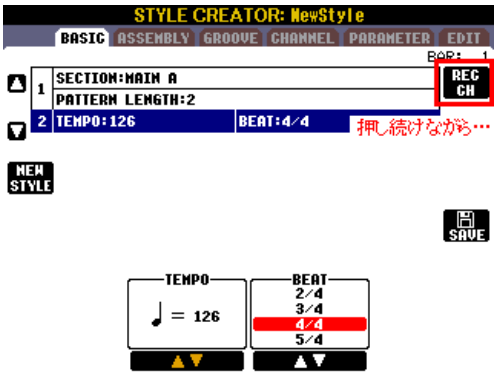
４－６）下へ移動。



４－７）テンポを１２６にセット。⑥

５．作りたいパート（ベース）を選ぶ

スタイルには８つのパートがあります。この中から作りたいパートを指定します。



５－１）REC CH を押し続けながら

５－２）同時に BASS を押します。⑦

[注1] REC とパートを同時に押してください。

[注2] 上矢印ボタンと下矢印ボタンがありますが、
下矢印ボタンのほうを押します。

５－３）ベースパートのアイコンの下に REC という赤い文字が表示されたら OK です。

５－４）準備完了

（続いてエディット画面へ移動します）
液晶の右横の TAB ボタンで右へ。

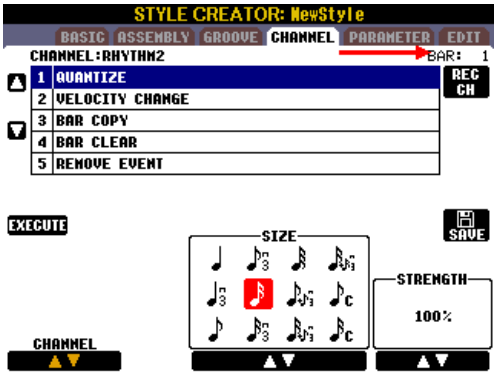
６．エディット画面へ移動

６－１）液晶の右横にある TAB ボタンで右へ。

【参考】ここはアセンブリー画面で、スタイルの８パートを同時に眺めながら組み立てることができます。

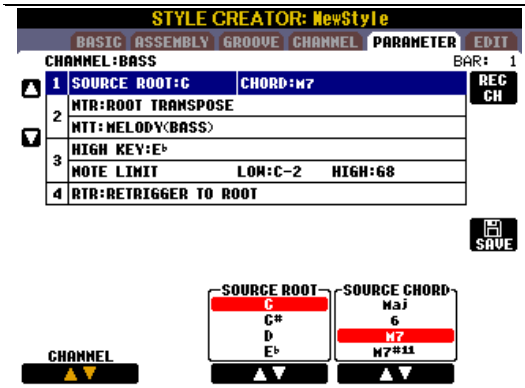
６－２）さらに右へ。

【参考】ここはグループ画面で、既存スタイルの音符の位置などを全体的に調整します。楽器プリセットスタイルを手っ取り早く修正して使う場合に有効です。



６－３）さらに右へ。

【参考】ここはチャンネル編集画面で、既存スタイルをチャンネル単位（つまりパート単位）でベロシティーを全体的に増減させたり、ある小節を別の位置にコピーしたりします。



６－４）さらに右へ。

【参考】ここはパラメーター画面で、Ctab パラメーターを設定します。ただしチャンネルスイッチ・パラメーターはスタイルクリエーターでは触れません。（WEB 上には有償/無償の Ctab 編集ソフトウェアが流通していますので、そちらをお使いください。）

７．パターンの記述

スタイルクリエーターはイベントリスト形式でパターンを入力したり修正したりします。また分解能は 1920TPQN（4 分音符＝1920、８分音符＝960、16 分音符＝480）です。

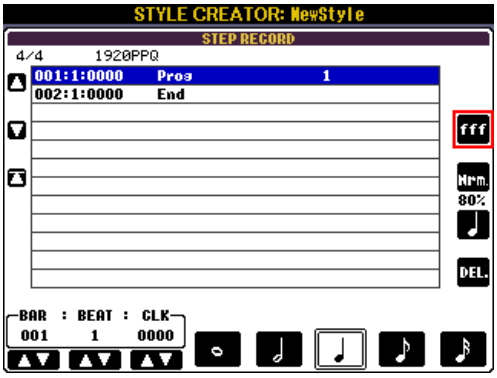
７－１）はじめに表示される画面は EDIT 画面で値を修正するときに使います。

パターンの記述はステップ入力画面で行います。

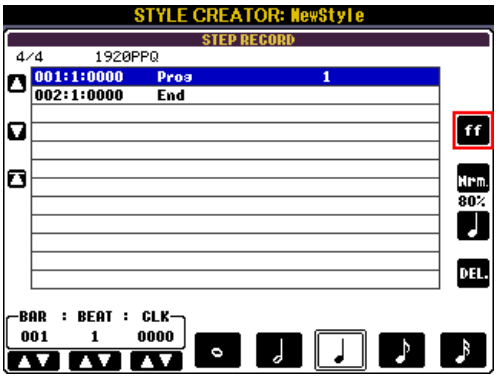
７－２）STEP REC を押します。①

７－３）ステップ入力の画面になると、右列に４つのボタンが現れます。Default では左の画面ですが「Kbd Vel.」は鍵盤を打鍵した値がそのまま入るモードですのでこれを変更します。②

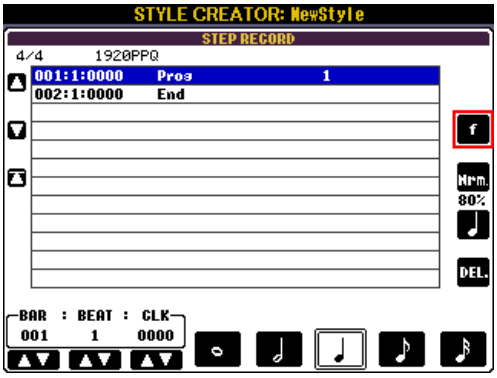
[参考] ゲートタイム (左の状態では Nrm=80%) や、音符種 (3 連や付点) も選べます。押し間違えたときは DEL.を使います。



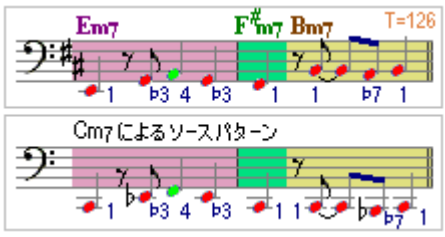
７－４）もう一度押す。



7－5）もう一度押す。

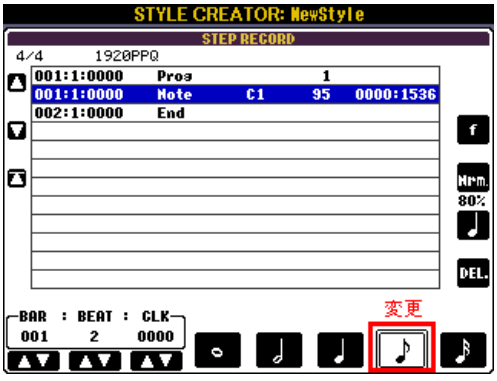


7－6）ｆ（ベロシティ 95）にします。



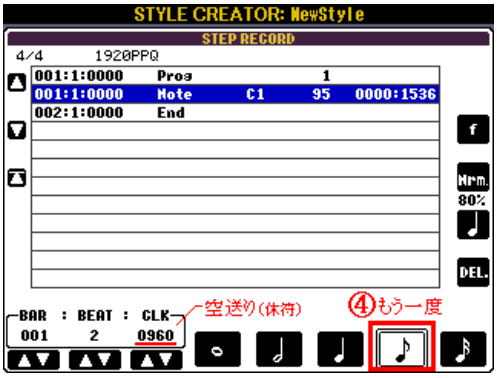
それでは左図（下）のソースパターンを入力していきます。

7－7）鍵盤から C1 を入力。③



7－8）8 分音符に変更

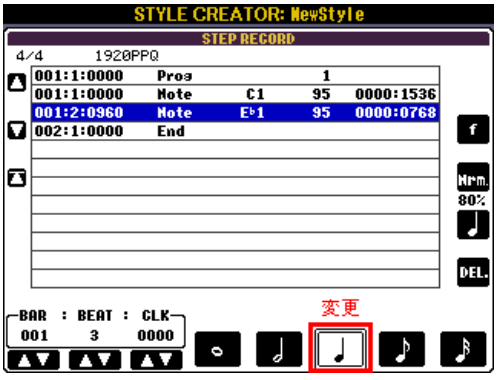
７－９）画面左下の現在位置に着目



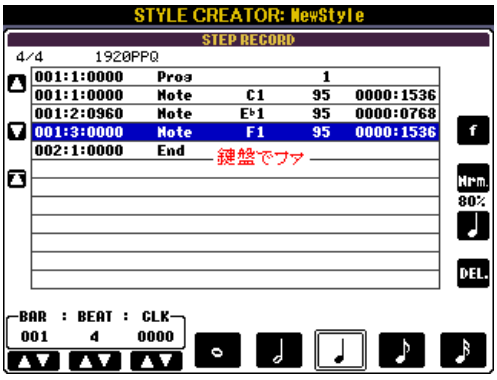
７－10）再度 8 分音符ボタンを押すと、現在位置が空送りされる（CLK=960）。④

【参考】休符はこのように音符ボタンを押しで、位置を空送りします。この使い方はぜひ覚えましょう。

７－11）鍵盤から Eb1（8 分音符のまま）を

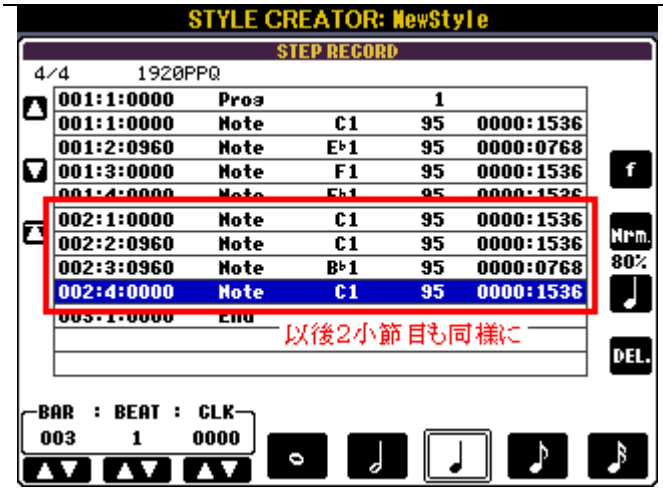


７－12）4 分音符に変更



7－13）鍵盤から F1 を

7－14）鍵盤から Eb1 を



以後同様に

002:1:000 C1（4 分音符）

002:2:960 C1（4 分音符）

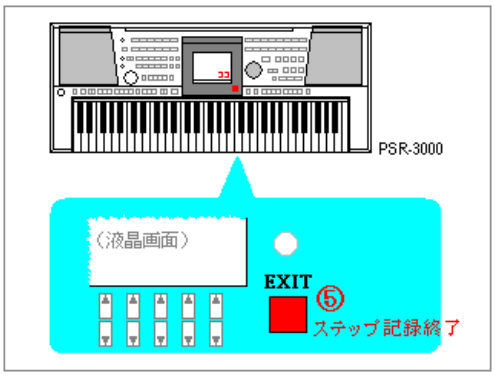
002:3:960 Bb1（8 分音符）

002:4:000 C1（4 分音符）

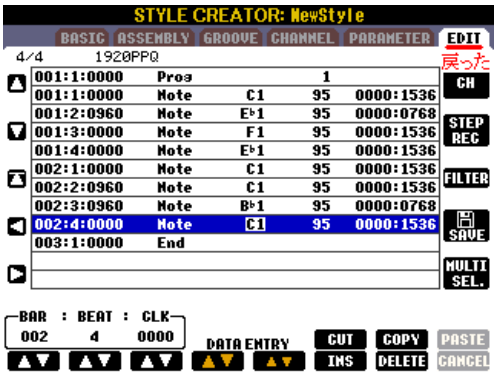
を入力します。

８．パターン修正

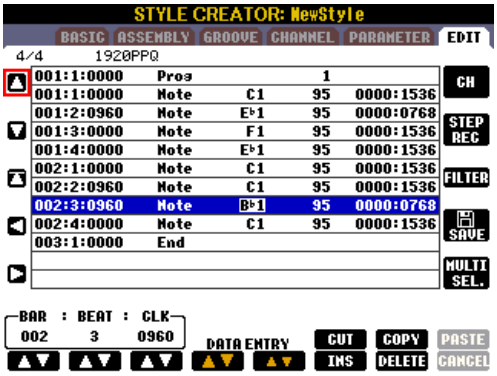
それでは Edit 画面に戻り、一部のデータを修正します。ここではオクターブとゲートタイムの修正を例示します。ノートの位置やベロシティーの修正は各自お好みで実行してください。



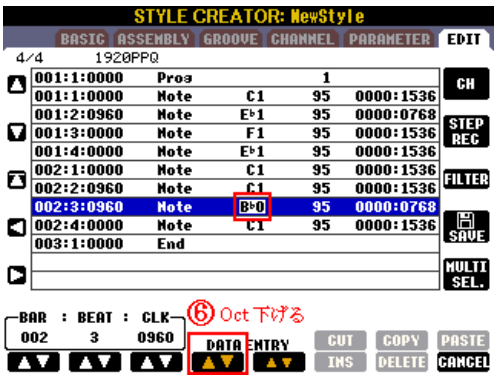
８－１）液晶画面の右の EXIT を押して、ステップ入力を終了します。⑤



８－２）EDIT 画面に戻りました。

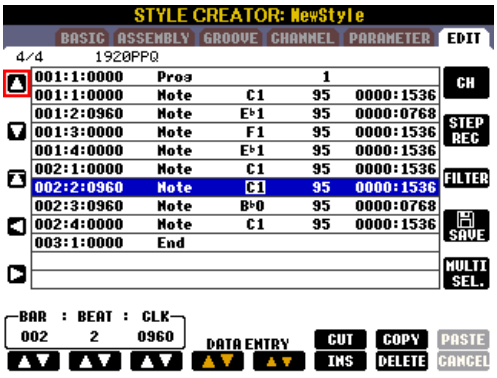


８－３）上へ移動。

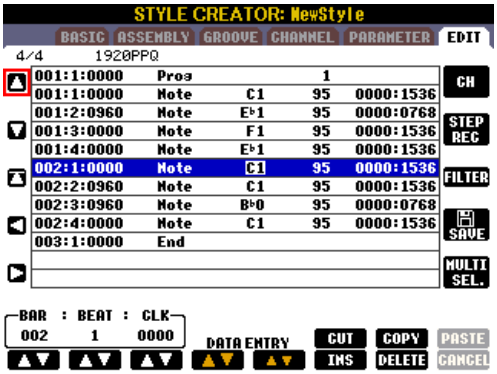


８－４）Data Entry の左側を使って、Bb1 をオクターブ下の Bb0 にする。⑥

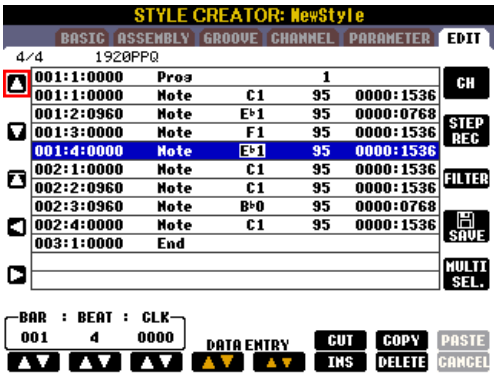
数値の修正には Data Entry を用います。
大きな単位で値を動かすときは左側を、１づつなら右側の矢印ボタンを上手に使いわけます。
また液晶画面の右側の Data Entry ダイアルを廻して修正することもできます。



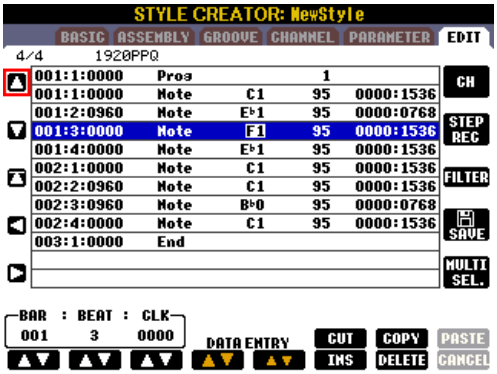
8－5）上へ移動。



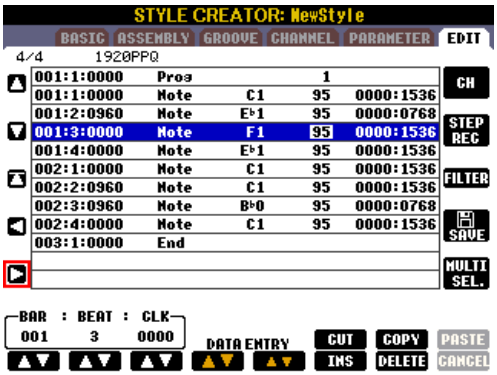
8－6）上へ移動。



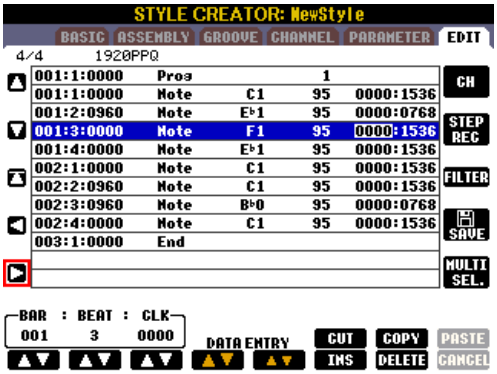
8－7）上へ移動。



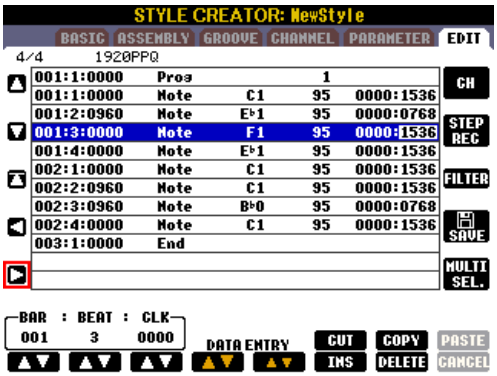
8－8）上へ移動。



8－9）右へ移動。



8－10）右へ移動。

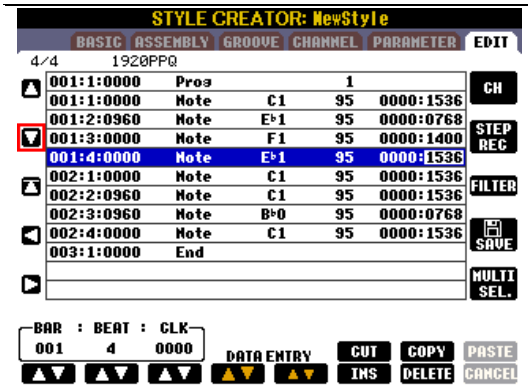


8－11）右へ移動。

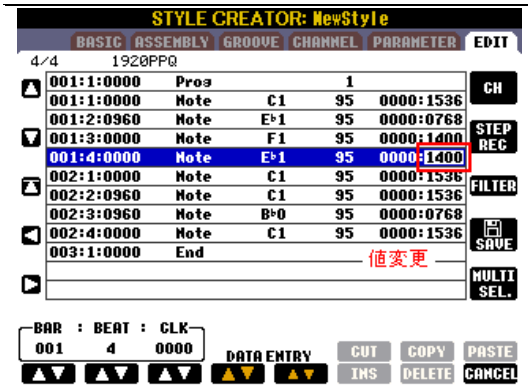
8－12）ゲートタイムを少し短めに修正します。（1536 を 1400 に）⑦

例として以下、1 拍目以外の４分音符の長さを修正してみます。8-14), 8-17), 8-20)

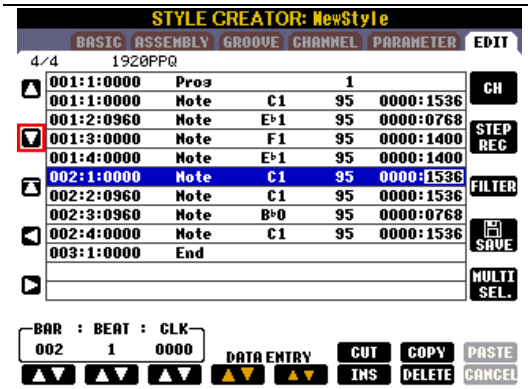
【参考】画面中央の下にある Data Entry ボタンでも数値を修正できますが、液晶画面の右側にある大きな Data Entry ダイアルを廻す方が手軽でしょう。



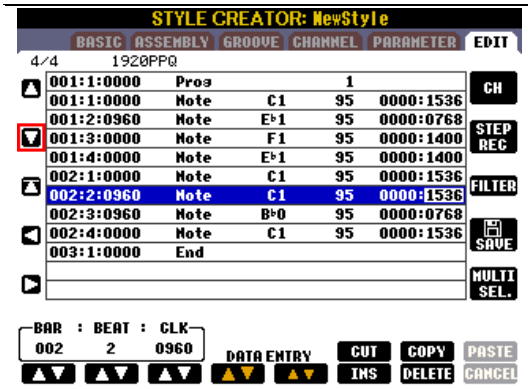
8－13）下へ移動。



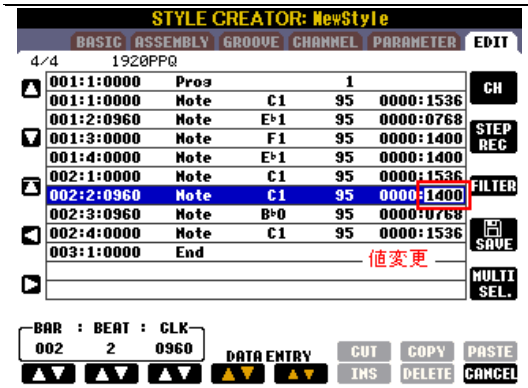
8－14）ゲートタイムを 1536→1400 に



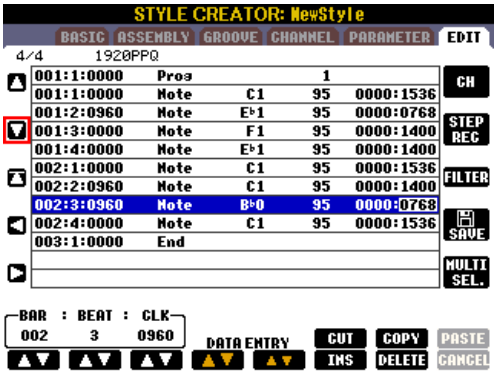
8－15）下へ移動。



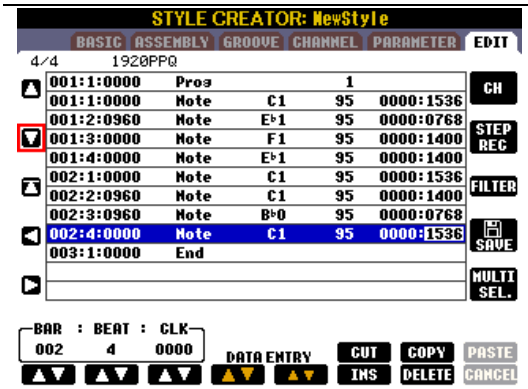
8－16）下へ移動。



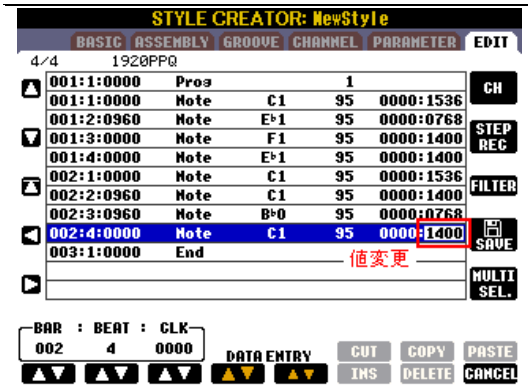
8－17）ゲートタイムを 1536→1400 に



8－18）下へ移動。



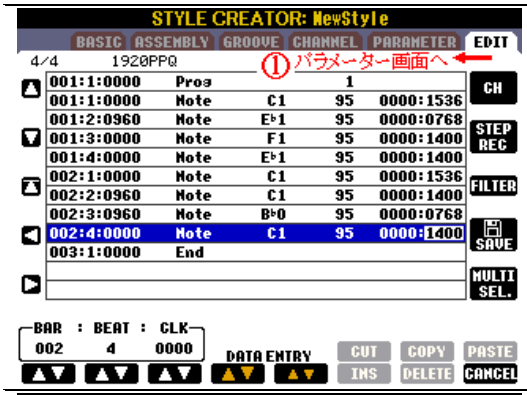
8－19）下へ移動。



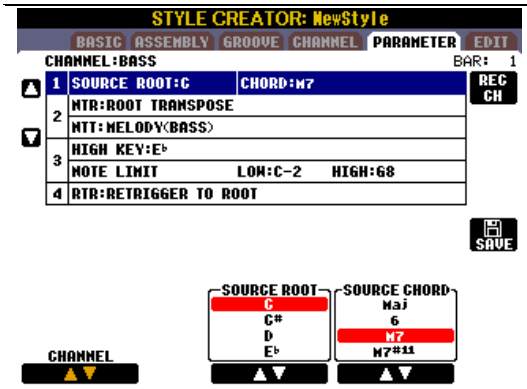
8－20）ゲートタイムを 1536→1400 に

１０．Ctab パラメーターの設定

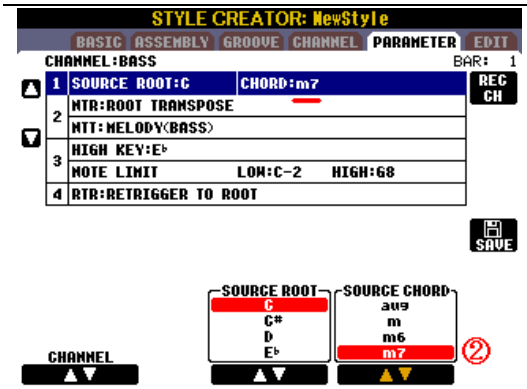
パターンを望むように鳴らすには Ctab パラメーターを正しくセットする必要があります。



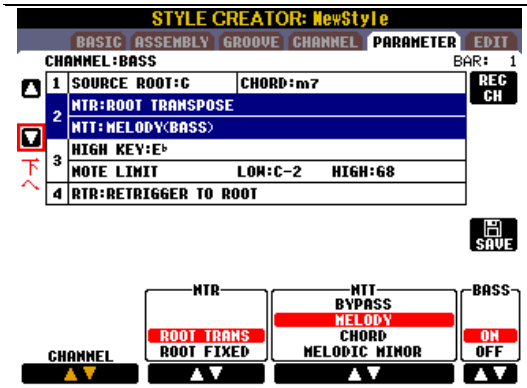
９－１）液晶画面の横の TAB ボタン押して、でラメータ画面へ。①



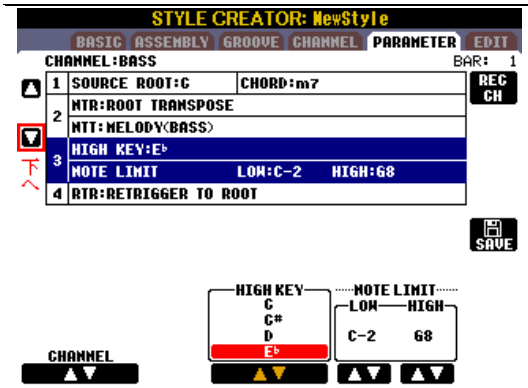
９－２）パラメータ画面です。



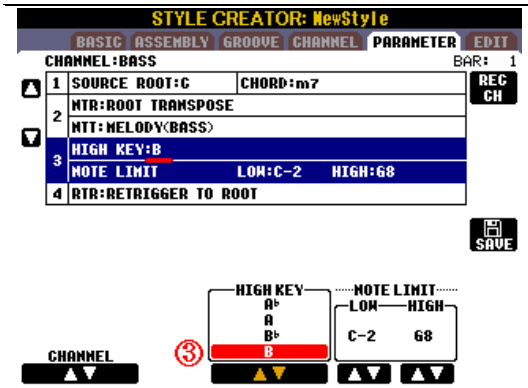
９－３）Source Chord を m7 にします。②（Source Root = C ですので、ソースパターンは Cm7 であると定義されました）



９－４）下へ移動。



9－5）下へ移動。

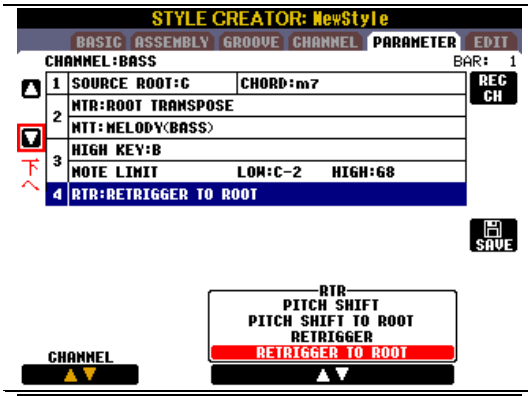


9－6）High Key を B にする。

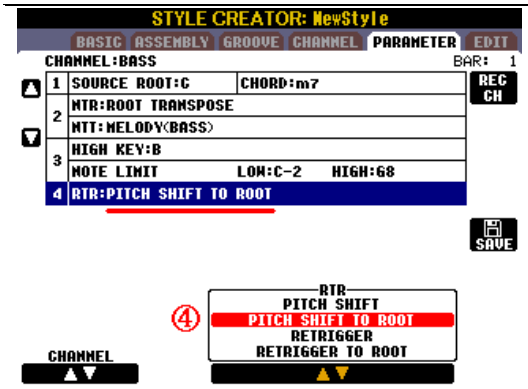
鳴らしたいパターンは、Em7→F#m7→Bm7の順番にベースルートが高くなっています。

したがって音高変換のオクターブ切替えの最高キーを B としました。③

実際の演奏時には低い方の E,F#,B の PK 鍵を踏む設計仕様です。（高い E,F#鍵は踏まない）



9－7）下へ移動。



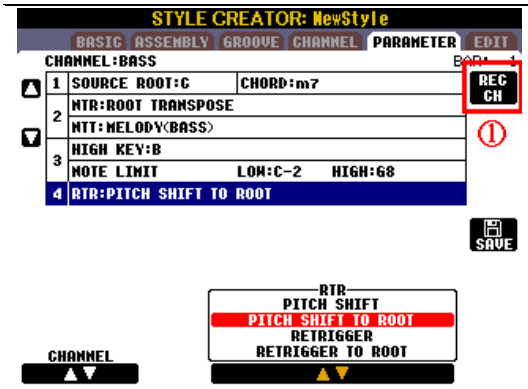
9－8）RTR を Pitch Shift to Root に。④

RTR とはスタイル発音中にコード変化が起きた場合に、その発音中の音をどう処理するかを決めるパラメーターです。

Pitch Shift to Root は発音中の音を止めずに、ピッチシフトさせます。STAGEA のスタイルのベースパートはほとんどがこの設定です。

１１．スタイル音色（ベースパート）の設定

STAGEA ではベースパートは（スタイル音源ではなく）PK 音源に接続されています。ここでどんなベースを選んでも STAGEA には無視されますが、必ず設定するようにしましょう。



10－１）REC CH を押してパートボタンを表示させます。①

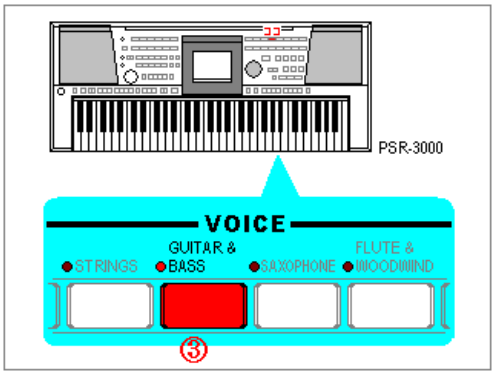
10－２）BASS を押します。②

[注] 上矢印ボタンと下矢印ボタンがありますが、

上矢印ボタンのほうを押します。

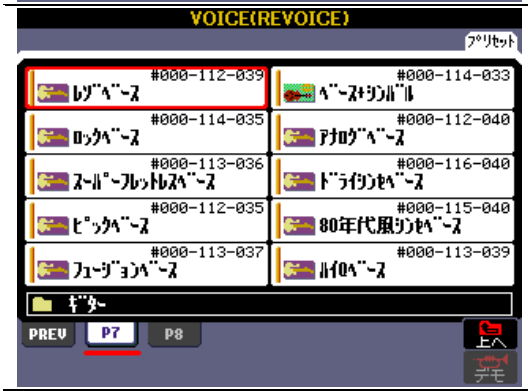
10－３）音色リストが表示されグランドピアノが反転しています。

（MSB=0, LSB=0, Program Change=1）



10－４）ボイスボタンの Guitar & Bass を押します。③

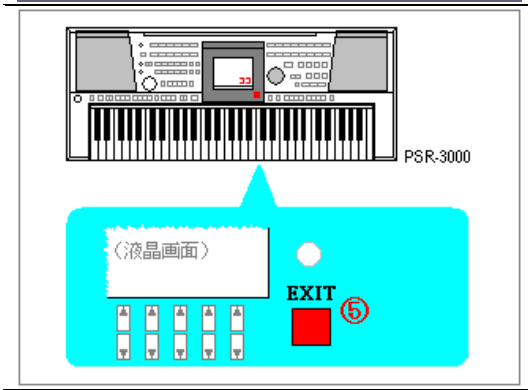
10－５）Bass は P7 以降にありますので、NEXT を押す。



10－６）P７が表示されました。

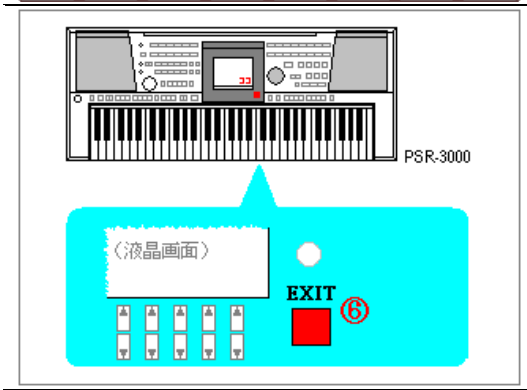
10－７）ドライ シンセベースを選びます。（MSB=0, LSB=116, Program Change=40）

【参考】LSB=116 はヤマハ製の電子楽器専用の拡張 XG ボイスです。10-3)は XG ボイス（DTM 用）のページでしたが、10-4)のようにパネル上のボイスボタンを押すと、ダイレクトにそのカテゴリーの拡張 XG ボイスのページに飛び込めます。**もちろん 10-3)から「上へ」で順に拡張ボイスまで辿る事も可能ですが遠いです。**

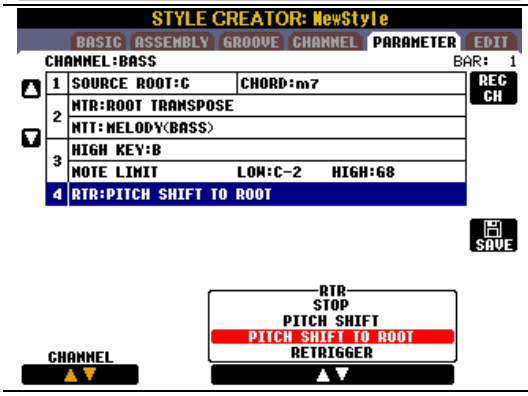


10－８）EXIT を押してボイスリスト画面を抜けます。⑤

10－９）ベースパートにギターのアイコンが入ったことを確認します。



10－10）もう一度 EXIT を押します。⑥



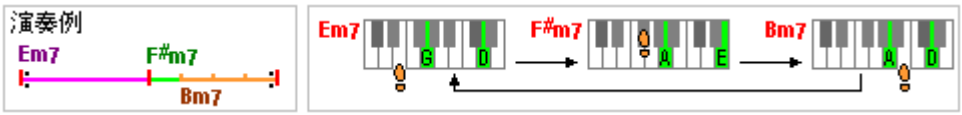
10－11）隠れていた SAVE ボタンが現れますので保存します。

（STAGEA と違ってスタイルファイル名は自由に決めることができます。一旦楽器内のユーザーディスク領域に保存したのち、USB メモリーへコピーして持ち出すと良いでしょう。）

このスタイルを STAGEA の RPP から読み込み、自由にアセンブリして使うことができます。

【参考１】カスタム ABC の初心者向け押鍵

ルートの押鍵は PK に任せてしまい、左手 LK から省略した(緑の LK２鍵だけ)の簡単な弾き方



【参考２】ボイスリストの音色名の上に MSB－LSB－ProgramChange の音色番号を表示するには MENU の[FUNCTION]ボタン→[UTILITY]→[CONFIG2]タブから、Display Voice Number = On にします。

【参考３】パターン設計には Ctab パラメーターの知識が必要です。

http://homepage2.nifty.com/el_freesoft/Stagea_Style/P1701.htm などを参考にしてください。

以上